

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390102301		
法人名	認知症対応型共同生活介護		
事業所名	北杜の郷 1丁目		
所在地	熊本市北区小糸山町718番地		
自己評価作成日	令和5年 2月 16日	評価結果市町村報告日	令和5年 4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosp/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosp/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和5年 3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①夢の新「3K職場」を目指して取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者に感動をあたえる介護</li> <li>・入居者と職員が共に感動する介護</li> <li>・ご家族に感謝をされる介護</li> </ul> <p>②コロナ禍にて面会制限をさせて頂ける昨今、近況を伝える為に毎月の会報や手紙の支援など、家族や身近な方々との関係性を絶やさないよう情報を発信している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>住宅地の中でありながら静かな環境にある事業所では、コロナ禍でありながらも法人全体、事業所での会議を継続し、職員育成に力を入れておられます。職員の入れ替わりや新年度の管理者交替もあるようですが、5ヶ年計画で事業所の体制作りに取り組まれる様子が聞かれました。現在、入居者の様子も比較のお元気な方も多いため、天気の良い日には外でお茶を飲んだりお花の世話を楽しんだり、外気を感じる取組みも続けられています。この数年はコロナ禍のため地域との交流等も難しい状況でしたが、状況が落ち着いた後には交流や関わり作りにも期待できる事業所でした。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をユニットの壁に貼り、常に全職員が意識づけるようにしている。管理者と職員は介護サービスの場で実践できるよう日頃から共有している。	で愛(自助)・ふれ愛(共助)・たすけ愛(公助)の法人理念には思いのコメントも添えられ、科学的根拠に基づいたケアを施設理念に取組んでいる。職員入職時には理念・法人の思いを説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年同様、コロナ禍で地域のイベント等が中止になっており、地域活動への参加が難しくなっている。清掃活動においては再開され、地域の一員として参加し交流の場を得ることができた。	コロナ禍で地域行事の中止もあり、入居者と地域との関わりは難しい状況が続いている。年2回の地域清掃には法人から参加している。自治会長とは懇意であり、情報誌等を持参することで情報交換も行っている。	事業所は地域公民館の近くでもあり、地域と事業所の関係をうかがうことができました。社会情勢が落ち着いた後には、入居者と地域との交流ができるようになることに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域推進会議を通じて以前は自治会長や民生委員の方々からの相談を受け助言を行っていたが、現在は中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年に引き続き、推進会議を中止している。書面でのサービスの実際、取り組みの状況等の報告を行っている。それを踏まえ、地域包括支援センターや自治会長、民生委員に電話連絡し意見交換を行っている。	運営推進会議はコロナ禍により対面での開催は中止している。地域包括支援センターや自治会長等、運営推進会議メンバーとは連絡をとりあい、情報交換・意見交換を継続して行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在、地域推進会議が開催できていないので、地域包括支援センターとは電話にて情報を共有している。生活保護受給者の利用者様と家族が安心できるよう行政との連携を図り、支援を行った。	地域包括支援センターとは連絡を取合い情報交換を行っている。行政とは各種手続き・報告・連絡・相談等で協力関係を持ち取組んでいる。コロナ禍における感染症への取組みについても助言等をもらう機会もあった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3ヶ月に1回の頻度で実施し、身体拘束せずにケアする方法や課題を検討、継続。内容を全体ミーティングで職員に周知している。間違えやすい具体的な例を委員会より説明し、身体拘束・高齢者虐待に繋がることを再度、確認し理解を深めている。	法人で組織する身体拘束委員会に担当職員が出席し、事業所職員会議で共有している。次年度は年間計画にて研修等を行う予定である。入居者の状況により継続が必要とされる場合には、家族の同意を得ている。	身体拘束が必要と思われる際には、できるだけ身体拘束をしないケアに向けて、職員全員での検討会議や実践(時間帯・昼夜)するなどの試みに期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体ミーティングを通じて高齢者虐待について理解を深めるよう周知している。新人教育でも資料を用いてしっかり理解をしてもらい防止に努めている。身体拘束についても職員間、ご家族とも話し合いケアの検討に努めている。		

グループホーム北杜の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議にて資料を用いて権利擁護や成年後見制度について理解を深めるよう周知している。今後は、新人研修でも権利擁護の知識を深めていけるよう研修会を行っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前よりパンフレットを用いて入居料金や介護費についてはしっかり説明を行っている。また、入居時に必要な用品をリストアップし本人・家族には納得した形で入居契約につながるようにしている。事前に見学にも来ていただき、疑問や不安に思っていることも聞き、納得していただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域推進会議に家族代表が参加できる機会を設けているが、現在はコロナ禍で参加できていない。また面会も全面禁止にしていたため来所者が少なかった。その分、ケアマネージャーや看護師からご家族へ本人様の状況報告をする際にご意見や伺い、他職員に情報共有している。	コロナ禍であり感染状況により面会方法を工夫しながら受入れを検討し、窓越し面会も行ってきた。入居者の日々の様子は職員から家族へ連絡し、特に感染症の時期にはよく連絡をとりあい、家族の意見・要望を得てきた。後見制度等利用の方もおられるため、定期的に連絡し説明を重ねている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議に施設長・代表者も参加し、運営や業務についての職員の意見や要望を言えるような場を設けてあり、速やかに検討し改善に努めている。	コロナ禍の中でも毎月の職員会議は開催してきた。職員会議には法人からも参加があり、職員が直接意見を述べることもできる。事業所では職員の資格取得も積極的に勤めており、職員の意向も確認しながらスキルアップや就業環境整備にも努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は半年に1回、職員個々と面談し、勤務状況の把握ややりがいなど各自の努力や実績に見合った給与と基準の見直しを行い各自が向上心を持って働ける環境作りを整備され、職員の意見も取り入れ改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスキルアップに必要な研修を受ける機会を勤務時間内に参加できるよう配慮している。研修の情報を掲示し、希望する職員には今年度も認知症実践者や認知症基礎研修など資格取得へのサポートを法人が行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本県地域密着型サービス連合会の交流会や勉強会に参加する機会がないが、電話等での情報交換を行っている。		

グループホーム北杜の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用する前は、事前に施設内の見学や雰囲気を見ていただき、不安や要望を確認しながら、安心していただけるよう心掛けている。また、管理者や職員と顔合わせすることで顔馴染みの関係性を作る。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の相談を受けた段階でご家族が困っている不安や悩み、今後の要望など可能な限り理解し、どのような支援が今後は望ましいか考えていける関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族を支援していくうえで必要としている支援を感じた際には、社会資源が使えるように地域包括支援センター・市役所等と連携を取りながら提供できる体制に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のニーズを多方面からの情報をもとに把握し、決して決めつけの介護にならないよう、毎月のユニット会議では利用者個々の介護方法が適切か共有し検討を繰り返している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設に入居しても本人と家族の関係性は継続して大切にしたいと考えている。現在はコロナ禍のため面会制限も行い、病院受診も訪問診療に切り替えて、本人様とご家族様が直接会機会は少なくなっている。そのため、職員から本人の現在の状況をこまめに電話で報告し、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会も外出も出来なかった。しかし、窓越しではあったが本人様の元気な姿を見てご家族も安心されていた。また、家族から贈り物が届いた際は本人の直筆でお礼のがきを郵送し、面会ができない中でも関係継続の支援に努めている。	従来のような外出や来訪による馴染みの人や場との関係継続の支援は難しい状況であったが、家族との関係が希薄にならないよう支援を行った。近隣の家族の立ち寄りもあり、居室には家族からの手紙が届いた様子もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションで季節に合わせた制作物を一緒に作ったり、イベントやゲームで一緒に語りあい笑いあえる関係性のできる支援を行っている。		

グループホーム北杜の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方へは、その後の経過を電話を通じて現状確認を取るよう努めている。また、電話や来所されてもご相談できる関係性を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴や生活習慣を日々の関わりの中でしっかり考え、それに応じた支援ができるように努めている。意思表示の困難な場合は、アセスメントの情報や家族の方の意見を参考にし、本人の意向に少しでも近づき支援に努めている。	現状思いや意向を表すことができる入居者も多く、入居者との関わりや言葉等から希望や意向の把握を行っている。入居者の言葉だけでなく、それぞれの生活歴等により入居者の真意を思い図るよう努めている。生活の中では、新聞を読んで過ごしたり、花が好きな方は世話を楽しむ等、それぞれの好きなことも大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族との面談を通じて、本人の生活歴や最近の生活状況を把握し、支援につながるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活スタイルを把握し、本人のニーズに合った過ごし方を尊重するよう努めている。職員が個々の有する力を把握し、自立支援を促している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	新規入所の際に入居者・家族等と関係者が話し合い、介護支援専門員が立案した介護計画書を家族に説明し、同意を得ている。入所後のモニタリングは、介護支援専門員とユニットの介護職員・看護職で話し合い介護計画を作成している。介護計画書に沿った支援ができるよう努めている。	職員会議でケアについての話し合いが定期的に行われて、介護計画の実践・共有が行われている。その記録を参考にしてモニタリングを介護支援専門員が行い、介護計画の見直しを年2回を基本として作成している。アセスメントは基本の年1回に加え、容態変化時等臨機応変に行っている。	入居者の状況については、職員間で話し合いを重ねている様子が聞かれました。理念と介護計画と実践がグループホームにとって重要なことを念頭に、理念に沿った介護計画の作成に期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入し、日勤帯・夜勤帯と申し送りを行い、職員間の情報共有ができています。また、ユニット会議で個々で検討したいケアや気づきについて話し合い、介護計画の見直しや家族との情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療による協力医療機関との連携を図り、主治医・調剤薬局・施設看護師で情報共有が出来る関係性を作り柔軟な支援に取り組んでいる。		

グループホーム北杜の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人のニーズをもとに資源活動ができるように努め、意向に沿った支援が行えるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族とよく相談し、かかりつけ医を訪問診療医に変更できるように状況報告書を作成し連携・情報交換を図っている。訪問診療で施設内で定期的な医療を受けられるよう支援している。	現状殆どの入居者が協力医をかかりつけ医としている。入居時に家族と検査等を受けて頂いた後は毎月往診としている。家族協力のもと通院もある。その他専門医は看護職付き添いによる通院で、家族には状況を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	内服管理、訪問受診時の主治医との相談・連絡等は看護職が主に行っている。受診前には、状態の変化や相談したい内容を介護職とも情報交換し、指示や助言などができるようにしている。また、主治医とメール連絡することで情報を早く伝えられ指示を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、状況報告書・看護サマリーを提供し、医療機関との情報交換を行っている。退院時には、退院カンファレンス会議が現在は難しいため、事前に病院側から看護サマリー・リハビリサマリーを受け取り、情報共有・連携が取れる体制をつくれるようにしている。また、主治医・薬剤師と日頃からメールで情報共有し、関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現段階では看取りを当施設では行っていない。しかし、契約時に今後どのような対応を望まれているかを確認したうえで重度化及び看取りに関する指針について説明を行っている。今後は、訪問診療の主治医と家族に看取りについて十分な話し合いと説明が必要になってくる。	現状、入居時に家族の意向をお尋ねし、重度化及び看取りに関する事業所の指針を説明している。終末期の支援については、今後数年かけて体制を整えるよう計画しており、医療機関の協力関係、職員体制や職員のレベル向上、心のケア等について検討しているところである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアルを作成し職員に周知するようにしている。また緊急時の連絡網を作成し夜間帯に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震に関するマニュアルを作成し、年2回の消防避難訓練を実施している。調理担当者も参加し、火災場所を想定して訓練している。コロナの影響と入居者の体調も考慮し、非常口のベランダまでの避難となっている。今後も夜間帯の想定や歩行困難な入居者への対応等の避難訓練を話し合い、実践できるよう努めていく。	今年度は昼間を想定し2回実施しており、消防署からの講評も得た。今回夜間帯の訓練は行っておらず、職員会議でも課題とした。	夜間は職員数も少ないため、夜間帯の訓練の実施は必要と考えます。様々な自然災害等が考えられる現在ですので、色々な想定や勤務体制等を考えた訓練も必要ではないでしょうか。

グループホーム北杜の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の居室への入室は、本人への了解を頂いている。本人の生活歴を把握し、個々の人権を尊重した声掛けに努めている。排泄や入浴など自尊心に配慮をしながら支援を行っている。	事業所の一日の生活は流れはあるものの、入居者の体調やその日の気分等に配慮したケアを行っている。入浴時の服の選択等、入居者本人の選択の場も作っている。日々の生活の中では言葉掛けや入浴・排泄時の対応等にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者が自分で選択しやすいような質問を行い、少しでも本人の思いに寄り添った支援を行うことを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の流れはあるが、個々の体調やペースに合わせて過ごしていただいている。利用者の希望にすべて合わせた支援が利用者にとって良いことや職員の都合が良く判断し、職員側の都合にならないよう努めている。職員は本人の性格・生活歴・体調を把握することを心掛け支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時はパジャマから普段着に更衣される支援を行っている。女性は化粧、髪を整えるなど身だしなみを意識される。入浴後も本人と一緒にどのような衣服を着たいか考え支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事をする事で個々の好みや食事摂取状況、嚥下状態などの情報を得ることができる。食事は調理師が入居者個別に食事形態によって提供している。レクリエーション(季節の行事・誕生会)には、ソーマン流しや芋ぜんざいなどのおやつ作りを行い、自分で作って食べる楽しみを感じて頂いている。	事業所内で職員による手作りの食事を提供している。衛生面に配慮した厨房での食事作りではあるが、入居者も献立を聞きに行く姿もあり、食事を生活の楽しみとする取組みもある。事業所内での手作りのため、日々の体調等により提供形態を臨機応変に対応している。職員も食事時間を共にすることにより、入居者の日々の体調変化にも気づきがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回の体重測定を行い、増減が大きい場合は訪問診療にて主治医と情報交換を行っている。それを基に家族と相談し、食事量など調整対応を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い自分で行ってもらっている。不自由なところは一部支援を行い、口腔内の清潔に努めている。現在、定期的な歯科受診も難しいため、家族に説明を行い訪問歯科にて口腔内チェックを実施する。今後も歯科医師の指導のもと口腔内の清潔保持に努めていく。		

グループホーム北杜の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員が排泄パターンを把握し、声掛けして誘導を行うことで排泄の失敗も軽減されている。夜間がオムツやポータブルトイレ使用の入居者も、日中はホール内のトイレでの排泄を促しリハビリパンツを使用している。	昼間はできるだけトイレでの排泄が継続するように声掛け誘導等により対応している。夜間はポータブルトイレの利用やオムツ使用等、入居者それぞれに合わせたケアを行っている。オムツやパット使用に関しては家族への相談も行い、使用量等への配慮も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操、歩行訓練などの運動を働きかけ、こまめに水分補給を行っている。排便のチェックを行い、状況によっては主治医より下剤の処方を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に1回の入浴を実施している。個浴に対応しており、機械浴の入浴もしている。事前に体調を確認し、入浴の有無を判断する。入浴不可でも更衣と清拭し清潔保持行う。入浴は自立支援を促し、個々の能力にそった支援を行っている。	週3回程度の入浴を基本としている。2ユニットで一般浴と機械浴があり、入居者の身体状況に応じている。できるだけ入居者の力を大切にしており、過度な介護は行っていない。入浴後に着る服を入居者自身に選んで頂く等、選択の場面も作っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前にはパジャマに更衣していただき、状況に合わせて職員と会話したりテレビ鑑賞をされている。就寝時間も本人に合わせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬、点眼薬などは看護師が管理している。服薬ミスがないよう看護師が内服薬のセットの際は二重確認を行い、服薬時も職員同士で二重確認を行っている。各ユニットには個々の薬情報が置いてあり、職員は変更がないか周知し服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、花の好きな入居者に施設内の花瓶に花を生けたり、苗植えや花の水やり・収穫をお願いしている。歌の好きな人は、皆さんで懐かしい歌を聞いたり楽しみのある生活ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナの影響で外出があまり出来なかった。天気の良い日は敷地内で日向ぼっこや野菜栽培など少しでも外気に触れ、季節感を感じていたけよう努めている。	コロナ禍であり、密になる場への外出はできなかったが、少人数でのドライブを継続している。敷地内や周辺には季節を楽しむ木々や花が見られ、天気の良い日には外でお茶を楽しむ姿もあり、花の好きな入居者はお世話を楽しむ等、外気を感じる取組みを行っている。	

グループホーム北杜の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時の契約時に家族と相談し、個々の能力に沿って施設が預かる金額と本人が管理する金額を決めている。本人の意思でお金を使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に事前に説明しており、入居しても家族や友人との関係性は継続できる体制を作っている。家族の協力もあり、入居されても本人の希望で電話することができ、家族との関わりが継続しているという安心感につながっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室横に共有のトイレが4ヵ所設置してある。ホールの中央にテーブルが設置してあり、居室を出ると共用の空間（見られた職員・利用者・適度な温度・光）が見えるという環境であり、季節の花が飾られ安心できる空間づくりに努めている。	建物中央部分に事務所があり、左右に2ユニットがある。リビングスペースには食卓の他ソファも置かれており、入居者それぞれが好きな場所で過ごすこともできる。入居者の歩行・移動への安全配慮も見られる。トイレの掃除も行き届き、臭いへの配慮もある。玄関先には季節の花々も置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でも新聞読んで過ごしたり、テレビ鑑賞をされる。ソファに座り、懐かしい音楽を聴きながら利用者同士で語り合ったり、職員と談話したり個々の時間を過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に家族に相談し、居室に入るもので本人が使い慣れたものを持参していただいている。家族の写真や位牌など本人が安心できるような環境作りを家族と協力して行っている。	入居時には家族へも依頼し、できるだけ使い慣れた生活用品の持ち込みを依頼している。居室には家族写真や手紙などもあり、家族の関わりを感じる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はすべてバリアフリーで車いすでも支障はない。夜間でもトイレが居室の横にあることで、トイレでの排泄ができるよう支援している。またホールの座る席を必要以上に変更せず、一定にすることで職員は見守りだけで本人の「わかること」を活かして生活を送れるよう支援している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4390102301		
法人名	認知症対応型共同生活介護		
事業所名	北杜の郷 2丁目		
所在地	熊本市北区小糸山町718番地		
自己評価作成日	令和5年 2月 16日	評価結果市町村報告日	令和5年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和5年 3月 日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

①夢の新「3K職場」を目指して取り組んでいる。 ・入居者に感動をあたえる介護 ・入居者と職員が共に感動する介護 ・ご家族に感謝をされる介護  ②コロナ禍にて面会制限をさせて頂ける昨今、近況を伝える為に毎月の会報や手紙の支援など、家族や身近な方々との関係性を絶やさないう情報を発信している。
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

(外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入))
-----------------------------------

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をユニットの壁に貼り、常に全職員が意識づけるようにしている。管理者と職員は介護サービスの場で実践できるよう日頃から共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年同様、コロナ禍で地域のイベント等が中止になっており、地域活動への参加が難しくなっている。清掃活動においては再開され、地域の一員として参加し交流の場を得ることができた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域推進会議を通じて以前は自治会長や民生委員の方々からの相談を受け助言を行っていたが、現在は中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年に引き続き、推進会議を中止している。書面でのサービスの実際、取り組みの状況等の報告を行っている。それを踏まえ、地域包括支援センターや自治会長、民生委員に電話連絡し意見交換を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現在、地域推進会議が開催できていないので、地域包括支援センターとは電話にて情報を共有している。生活保護受給者の利用者様と家族が安心できるよう行政との連携を図り、支援を行った。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3ヶ月に1回の頻度で実施し、身体拘束せずにケアする方法や課題を検討、継続。内容を全体ミーティングで職員に周知している。間違えやすい具体的な例を委員会より説明し、身体拘束・高齢者虐待に繋がることを再度、確認理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体ミーティングを通じて高齢者虐待について理解を深めるよう周知している。新人教育でも資料を用いてしっかり理解をしてもらい防止に努めている。身体拘束についても職員間、ご家族とも話し合いケアの検討に努めている。		

グループホーム北杜の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議にて資料を用いて権利擁護や成年後見制度について理解を深めるよう周知している。今後は、新人研修でも権利擁護の知識を深めていけるよう研修会を行っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前やケアプラン作成を用いて入居料金や介護費についてはしっかり説明を行っている。また、入居時に必要な用品をリストアップし本人・家族には納得した形で入居契約につながるようにしている。事前に見学にも来ていただき、疑問や不安に思っていることも聞き、納得していただくよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域推進会議に家族代表が参加できる機会を設けているが、現在はコロナ禍で参加できていない。また面会も全面禁止にしていたため来所者が少なかった。その分、ケアマネージャーや看護師からご家族へ本人様の状況報告をする際にご意見や伺い、他職員に情報共有している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議に施設長・代表者も参加し、運営や業務についての職員の意見や要望を言えるような場を設けてあり、速やかに検討し改善に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は半年に1回、職員個々と面談し、勤務状況の把握ややりがいなど各自の努力や実績に見合った給与基準の見直しを行い各自が向上心を持って働ける環境作りを整備され、職員の意見も取り入れ改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスキルアップに必要な研修を受ける機会を勤務時間内に参加できるよう配慮している。研修の情報を掲示し、希望する職員には今年度も認知症実践者や認知症基礎研修など資格取得へのサポートを法人が行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本県地域密着型サービス連合会の交流会や勉強会に参加する機会がないが、電話等での情報交換を行っている。		

グループホーム北杜の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用する前は、事前に施設内の見学や雰囲気を見ていただき、不安や要望を確認しながら、安心していただけるよう心掛けている。また、管理者や職員と顔合わせすることで顔馴染みの関係性を作る。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の相談を受けた段階でご家族が困っている不安や悩み、今後の要望など可能な限り理解し、どのような支援が今後は望ましいか考えていける関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族を支援していくうえで必要としている支援を感じた際には、社会資源が使えるように地域包括支援センター・市役所等と連携を取りながら提供できる体制に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のニーズを多方面からの情報をもとに把握し、決して決めつけの介護にならないよう、毎月のユニット会議では利用者個々の介護方法が適切か共有し検討を繰り返している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設に入居しても本人と家族の関係性は継続して大切にしたいと考えている。現在はコロナ禍のため面会制限も行い、病院受診も訪問診療に切り替えて、本人様とご家族様が直接会機会は少なくなっている。そのため、職員から本人の現在の状況をこまめに電話で報告し、共に支えていく関係性を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会も外出も出来なかった。しかし、窓越しではあったが本人様の元気な姿を見てご家族も安心されていた。また、家族から贈り物が届いた際は本人の直筆でお礼のはがきを郵送し、面会ができない中でも関係継続の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションで季節に合わせた制作物を一緒に作ったり、イベントやゲームで一緒に語りあい笑いあえる関係性のできる支援を行っている。		

グループホーム北杜の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方へは、その後の経過を電話を通じて現状確認を取るよう努めている。また、電話や来所されてもご相談できる関係性を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴や生活習慣を日々の関わりの中でしっかり考え、それに応じた支援ができるよう努めている。意思表示の困難な場合は、アセスメントの情報や家族の方の意見を参考にし、本人の意向に少しでも近づく支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族との面談を通じて、本人の生活歴や最近の生活状況を把握し、支援につながるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活スタイルを把握し、本人のニーズに合った過ごし方を尊重するよう努めている。職員が個々の有する力を把握し、自立支援を促している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	初所入所の際に入居者・家族等と関係者が話し合い、介護支援専門員が立案した介護計画書を家族に説明し、同意を得ている。入所後のモニタリングは、介護支援専門員とユニットの介護職員・看護職で話し合い介護計画を作成している。介護計画書に沿った支援ができるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入し、日勤帯・夜勤帯と申し送りを行い、職員間の情報共有ができています。また、ユニット会議で個々で検討したいケアや気づきについて話し合い、介護計画の見直しや家族との情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療による協力医療機関との連携を図り、主治医・調剤薬局・施設看護師で情報共有が出来る関係性を作り柔軟な支援に取り組んでいる。		

グループホーム北杜の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人のニーズをもとに資源活動ができるように努め、意向に沿った支援が行えるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族とよく相談し、かかりつけ医を訪問診療医に変更できるように状況報告書を作成し連携・情報交換を図っている。訪問診療で施設内で定期的な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	内服管理、訪問受診時の主治医との相談・連絡等は看護職が主に行っている。受診前には、状態の変化や相談したい内容を介護職とも情報交換し、指示や助言などができるようにしている。また、主治医とメール連絡することで情報を早く伝えられ指示を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、状況報告書・看護サマリーを提供し、医療機関との情報交換を行っている。退院時には、退院カンファレンス会議が現在は難しいため、事前に病院側から看護サマリー・リハビリサマリーを受け取り、情報共有・連携が取れる体制をつくれるようにしている。また、主治医・薬剤師と日頃からメールで情報共有し、関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現段階では看取りを当施設では行っていない。しかし、契約時に今後どのような対応を望まれているかを確認したうえで重度化及び看取りに関する指針について説明を行っている。今後は、訪問診療の主治医と家族に看取りについて十分な話し合いと説明が必要になってくる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアルを作成し職員に周知するようにしている。また緊急時の連絡網を作成し夜間帯に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震に関するマニュアルを作成し、年2回の消防避難訓練を実施している。調理担当者も参加し、火災場所を想定して訓練している。コロナの影響と入居者の体調も考慮し、非常口のペランダまでの避難となっている。今後も夜勤帯の想定や歩行困難な入居者への対応等の避難訓練を話し合い、実践できるよう努めていく。		

グループホーム北杜の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の居室への入室は、本人への了解を頂いている。本人の生活歴を把握し、個々の人権を尊重した声掛けに努めている。排泄や入浴など自尊心に配慮をしながら支援を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者が自分で選択しやすいような質問を行い、少しでも本人の思いに寄り添った支援を行うことを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の流れはあるが、個々の体調やペースに合わせて過ごしていただいている。利用者の希望にすべて合わせた支援が利用者にとって良いことか職員の都合が良く判断し、職員側の都合にならないよう努めている。職員は本人の性格・生活歴・体調を把握することを心掛け支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時はパジャマから普段着に更衣される支援を行っている。女性は化粧、髪を整えるなど身だしなみを意識される。入浴後も本人と一緒にどのような衣服を着たいか考え支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事をする事で個々の好みや食事摂取状況、嚥下状態などの情報を得ることができる。食事は調理師が入居者個別に食事形態によって提供している。レクリエーション(季節の行事・誕生会)には、ソーマン流しや芋ぜんざいなどのおやつ作りを行い、自分で作って食べる楽しみを感じて頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回の体重測定を行い、増減が大きい場合は訪問診療にて主治医と情報交換を行っている。それを基に家族と相談し、食事量など調整対応を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い自分で行うてもらっている。不自由なところは一部支援を行い、口腔内の清潔に努めている。現在、定期的な歯科受診も難しいため、家族に説明を行い訪問歯科にて口腔内チェックを実施する。今後も歯科医師の指導のもと口腔内の清潔保持に努めている。		

グループホーム北杜の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員が排泄パターンを把握し、声掛けして誘導を行うことで排泄の失敗も軽減されている。夜間がオムツやポータブルトイレ使用の入居者も、日中はホール内のトイレでの排泄を促しリハビリパンツを使用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操、歩行訓練などの運動を働きかけ、こまめに水分補給を行っている。排便のチェックを行い、状況によっては主治医より下剤の処方を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に1回の入浴を実施している。個浴で対応しており、機械浴の入浴もしている。事前に体調を確認し、入浴の有無を判断する。入浴不可でも更衣と清拭し清潔保持行う。入浴は自立支援を促し、個々の能力にそった支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前にはパジャマに更衣していただき、状況に合わせて職員と会話したりテレビ鑑賞をされている。就寝時間も本人に合わせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬、点眼薬などは看護師が管理している。服薬ミスがないよう看護師が内服薬のセットの際は二重確認を行い、服薬時も職員同士で二重確認を行っている。各ユニットには個々の薬情報が置いてあり、職員は変更がないか周知し服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、花の好きな入居者に施設内の花瓶に花を生けたり、苗植えや花の水やり・収穫をお願いしている。歌の好きな人は、皆さんで懐かしい歌を聞いたり楽しみのある生活ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出があまり出来なかった。天気の良い日は敷地内で日向ぼっこや野菜栽培など少しでも外気に触れ、季節感を感じていたけよう努めている。		

グループホーム北杜の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時の契約時に家族と相談し、個々の能力に沿って施設が預かる金額と本人が管理する金額を決めている。本人の意思でお金を使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に事前に説明しており、入居しても家族や友人との関係性は継続できる体制を作っている。家族の協力もあり、入居されても本人の希望で電話することができ、家族との関わりが継続しているという安心感につながっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室横に共有のトイレが4ヵ所設置してある。ホールの中央にテーブルが設置してあり、居室を出ると共用の空間（見られた職員・利用者・適度な温度・光）が見えるという環境であり、季節の花が飾られ安心できる空間づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でも新聞読んで過ごしたり、テレビ鑑賞をされる。ソファに座り、懐かしい音楽を聴きながら利用者同士で語り合ったり、職員と談話したり個々の時間を過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に家族に相談し、居室に入るもので本人が使い慣れたものを持参していただいている。家族の写真や位牌など本人が安心できるような環境作りを家族と協力して行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はすべてバリアフリーで車いすでも支障はない。夜間でもトイレが居室の横にあることで、トイレでの排泄ができるよう支援している。またホールの座る席を必要以上に変更せず、一定にすることで職員は見守りだけで本人の「わかること」を活かして生活を送れるよう支援している。		

## 2 目 標 達 成 計 画

グループホーム北杜の郷

作成日 令和5年4月21日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	◎閉鎖的であり様々な情報発信を事業所が出来ていない ◎地域とのつながりが薄く、交流が出来ていない	◎地域の一員として理念に沿って積極的に地域交流に参加する ◎地域の方を招いての行事を行っていく。それに向けての計画をする	①地域行事の参加 ②老人会、子供会との触れ合い ③施設側が催しを開催し開放的な施設を目指す	12か月
2	6	◎身体拘束について職員全員が理解を深める必要がある ◎家族の理解があるものの、身体拘束廃止への工夫が不足している	◎内部研修において身体拘束廃止を共通理解とする。	①廃止に向けた検討会を定期的に行う。 ②時間帯、方法など話し合う ③夜間多動の方には日中の活動量を増やす等活動を見直す。	6か月
3	26	◎ユニット内カンファをしていたが話し合いが十分だったか分からない	◎職員が介護計画を理解し、理念に沿ったケアを実施する事が出来る ◎本人、家族、多職種が連携し本人に合った介護計画を作成する	①ケアプラン作成後、職員へ回覧し周知。 ②ひとりひとりの顔が見えるプランの作成 ③定期的なカンファ ④計画作成者に利用者情報を提供	6か月
4	35	◎地域住民に防災訓練を周知できていない ◎担当者に任せきりだった ◎地域の防災マップの把握ができていない	◎様々な災害、時間帯を想定し地域の協力を得ながら防災訓練に取り組むことができる ◎通報訓練を定期的に行う	①地域の協力体制などコミュニケーションを普段から取り情報を得る ②災害時マニュアルや懐中電灯の防災グッズの確認を定期点検する ◎様々な災害に対応できるよう事例検討など職員の理解を深める。	6か月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

